

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	情報処理		
必修選択	必修	(学則表記)	情報処理		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	30 時間でマスターWord & Excel2016		出版社	実教出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	パーソナルコンピュータの基礎知識を理解し、Word、Excel、PowerPointの基本操作ができるようになる。				
到達目標	①パーソナルコンピュータが情報処理等の道具の一つであることが理解できる。 ②パーソナルコンピュータの果たす役割が理解できる。 ③基本操作を習得し、実際の場面で活かすことができるようになる。				
評価基準	期末試験 70% 授業態度 30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石引 宏明			実務経験	○
実務内容	NTT在職中IT研修講師20年、Microsoft Word、Excelの通信教育教材開発の実務経験を元に、Word、Excel、PowerPointの基本操作を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション /Windowsの操作	授業の概要・授業の進め方・授業目標 情報処理の目的 情報とデータについて
2	Word入門	Wordとは タイピング、日本語入力、特殊な入力、ページ設定等の基本操作
3	Word基礎	文書の編集、表の作成、図の挿入
4	Word応用	ビジネス文書の作成練習
5	Word実践問題	ビジネス文書の作成演習
6	Excel入門	Excelの入力、 表のデザイン
7	Excel基礎	基礎計算、 絶対参照
8	Excel応用	グラフ、表計算
9	Excel実践問題	表計算、演習問題
10	Word・Excelの実践問題	Wordtenn Excelの操作のまとめ、復習
11	Word・Excelのまとめ問題	Wordtenn Excelの操作のまとめ問題
12	PPT操作基礎	Power Pointとは、Power Pointでの入力 ,アニメーション、スライドデザイン、図形の挿入

13	PPT操作応用	事例発表会に向けてのスライド作成練習
14	PPTを用いたポスター作製	5 W 1 Hを用いた情報のまとめ方、プリントスクリーン
15	PPTを用いた動画作製	アルバム作成、音楽の挿入、タイミング記録、動画として保存

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義・演習	科目名	総合福祉Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合福祉Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	①福祉住環境コーディネーター2級公式テキスト ②福祉住環境コーディネーター2級過去 & 模擬問題集21～22年度版		出版社	①東京商工会議所 ②日本能率協会マネジメントセンター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	福祉住環境コーディネーターの役割と機能を理解し、検定試験合格をめざす。福祉住環境整備の共通基本技術を学ぶ。		
到達目標	①高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境について理解できる。 ②障害別にみた福祉住環境整備の共通基本技術がわかる。 ③福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識が習得できる。 ④相談援助の実践的な進め方がわかる。 ⑤生活行為別にみた福祉用具の活用法が理解できる。		
評価基準	筆記試験50％　小テスト、提出物50％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者　　　・ 成績評価が3以上の者		
関連資格	福祉住環境コーディネーター2級　　　介護福祉士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	橋本　実千代	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	高齢者を取り巻く社会状況と住環境	高齢者を取り巻く社会状況と住環境
2	障害者を取り巻く社会状況と住環境	障害者を取り巻く社会状況と住環境
3	障害のとらえ方と自立支援のあり方	障害のとらえかた、高齢者及び障害者の心身の特性
4	疾患別・障害別にみた福祉住環境整備の考え方①	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備
5	疾患別・障害別にみた福祉住環境整備の考え方②	障害別にみた福祉住環境整備
6	福祉住環境整備の進め方	福祉住環境整備とケアマネジメント
7	福祉住環境整備の基本技術①	福祉住環境整備の共通基本技術
8	福祉住環境整備の基本技術②	生活行為別福祉住環境整備の手法
9	福祉住環境整備の基本技術③	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
10	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識	生活行為別にみた福祉用具の活用
11	実践的な福祉住環境整備①	実践に伴う知識の理解①
12	実践的な福祉住環境整備②	実践に伴う知識の理解②

13	まとめ①	まとめ
14	まとめ②	まとめ
15	まとめ③	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義・演習	科目名	スポーツ福祉Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツ福祉Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	①介護予防運動スペシャリスト資格認定教本 ②高齢者の筋力トレーニング		出版社	①日本スポーツクラブ協会 ②講談社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	高齢者、障害者等に対する介護予防、要介護者への重症化予防に質する運動の指導ができる。		
到達目標	①高齢者・障害者・要介護者等に対する自立生活に向けた運動指導の必要性が理解できる。 ②高齢者・障害者・要介護者の特性や個別性に合わせた運動指導の全体像がわかる。 ③身体機能維持・向上に向けた運動プログラムの構築ができる。		
評価基準	実技試験：30％　筆記試験：30％　レポート：30％　授業態度(出席率含む)：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者　・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士　中高老年期運動指導士　介護予防運動スペシャリスト		
関連科目	スポーツ福祉Ⅰ　こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ　発達と老化の理解　障害の理解		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	岡山　勝子	実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年間勤務した実務経験を元に、要介護者への重症化予防に質する運動の指導方法を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護予防運動論①	介護予防運動に関する知識・介護予防のための運動の必要性
2	介護予防運動論②	身体運動に係わる概念用語に関する知識 レジャー、レクリエーション、スポーツ、体育、運動などの概念の理解
3	介護予防運動論③	中高老年期及び要介護者の身体特性に関する知識
4	介護予防運動論④	リハビリテーションに関する知識 リハビリテーションの定義等
5	医学的視点からの 介護予防運動に関する知識	高齢者の病気の特徴、老年期症候群定義、高齢者に多くみられる疾患
6	理学的視点からの 介護予防運動に関する知識	高齢者の運動機能の特徴、介護予防のための運動効果、安全な運動のための留意点
7	救急救護に関する知識と実際①	高齢者に起こりやすい事故と病気
8	救急救護に関する知識と実際②	救急救護に必要なコミュニケーションの実際
9	測定評価に関する知識と実際	測定評価の目的と項目の選択 測定方法の選択と測定結果の活用
10	介護予防運動の実際①	筋力及び持久力の維持・向上に関する知識と実践 加齢に伴う持久力の低下と改善
11	介護予防運動の実際②	高齢者に適した運動プログラムと実際 調整力及び柔軟性の維持・向上に関する知識と実践
12	介護予防運動の実際③	介護予防運動としての調整力及び柔軟性とその実際 運動指導上の留意点
13	介護予防運動の実際④	参加者を引き付ける運動指導・プレゼンテーション 運動の日常生活化に向けた動機付けの方法

14	介護予防運動の実際⑤	運動指導の実施と評価
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義・演習	科目名	福祉カウンセリングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	福祉カウンセリングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	Q&Aで分かる回想法ハンドブック		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会的認知など社会心理学の基礎を学び、かつコミュニケーションスキルを習得する演習を行うことにより、利用者や家族、チームに対するコミュニケーションスキルの向上につなげる。 回想法を学び、利用者の精神安定を図るツールとし、対象者のニーズや目的に応じた具体的な実践方法が分かる。 さらに、対人援助としてのカウンセリングスキルとして、回想法を活用することができる。				
到達目標	①よい聞き手となり、より深い利用者理解への視点を身につけることができる。 ②高齢者のその人らしさを大事にし、その人の意思を尊重できる、人を人として尊敬できる。 ③対人援助の実践において、準備・計画を行い地域の中で実践することができる。				
評価基準	テスト：50％ 提出物：30％ 授業態度(出席率含む)：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士 心理カウンセラー初級コース修了				
関連科目	人間関係とコミュニケーションⅠ 福祉カウンセリングⅠ 認知症の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	橋本 江利子			実務経験	○
実務内容	千村クリニック（精神科・心療内科）、ベスリクリニック（心療内科）に心理カウンセラーとして勤務した実務経験を元に、カウンセリングスキルを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	回想法の基本①	回想法の歴史、意義、種類
2	回想法の基本②	回想法実施者の資質と守るべき倫理
3	回想法の目的と対象①	個人とグループ
4	回想法の目的と対象②	地域と施設
5	回想法の目的と対象③	認知症のある高齢者と健康な高齢者
6	ニーズに応じた回想法の実践と展開①	グループホームにおける回想法
7	ニーズに応じた回想法の実践と展開②	デイサービスにおける回想法
8	ニーズに応じた回想法の実践と展開③	さまざまなニーズに合わせた回想法
9	回想法の計画と準備①	テーマの決定と準備
10	回想法の計画と準備②	実施者の役割分担、計画準備上の留意点
11	回想法の実践①	実施中におけるさまざまな事態への対応①

12	回想法の実際②	実施中におけるさまざまな事態への対応②
13	回想法の実際③	記録について
14	回想法の効果と評価	回想法の評価方法
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義・演習	科目名	国際理解Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際理解Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	①まるごと日本のことばと文化 初級1 A2かつどう 【参考文献】②外国人のためのやさしく学べる介護のことば		出版社	①三修社 ②中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護の基本、応用、文化活動への参加から対象者を理解し、国家資格介護福祉士について理解することで日本の介護を国際的な視点から国内外に向けて発信できるようになる。日本の国家資格ライセンスについて理解し、介護福祉に適応できる語彙、知識を深める。国際社会の福祉の現状を理解し、その支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。		
到達目標	①国際的に福祉にかかわる者として、必要とされる知識、技術がわかる。 ②国際社会で求められる社会人としての立ち居振る舞い、必要とされるコミュニケーション力が身につく。 ③国家試験ライセンスについて理解する。試験問題の文章の読み、解釈ができる。(問題が読めて、何を問われているかがわかる。解答は各教科の授業内容とする)		
評価基準	テスト:30% 小テスト:30% 提出期限の厳守・参加:30% 提出物等の完成・内容:10%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	国際理解Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小野 美紗子	実務経験	○
実務内容	日本語教師としてオーストラリア・台湾の日本語学校に2年間勤務の実務経験を元に、国際社会の福祉の現状、その支援に必要な基礎的な知識を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	多様な暮らしと福祉①	多様な生活及び文化 ・世界の人口と課題 ・言語 ・宗教と暮らし ・政治と福祉の動向
2	多様な暮らしと福祉②	
3	多様な暮らしと福祉③	
4	多様な暮らしと福祉④	
5	多様な暮らしと福祉⑤	

6	多文化共生社会の理解①	多文化共生社会の理解 ・生活者としての様々な対象者の理解 ・様々な対象者のおかれている現状の理解 ・様々な対象者の課題の理解 ・様々な対象者の自立に向けた支援の理解
7	多文化共生社会の理解②	
8	多文化共生社会の理解③	
9	多文化共生社会の理解④	
10	多文化共生社会の理解⑤	
11	多文化共生社会の理解⑥	
12	多文化共生社会の理解⑦	
13	多文化共生社会の理解⑧	
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	介護の基本Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護の基本Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座 2	社会の理解	出版社	中央法規出版	
	最新介護福祉士養成講座 4	介護の基本Ⅱ			

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を習得する				
到達目標	①安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応、介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する。 ②多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他職種の専門性と役割と機能を学び、他職種協働の実際を理解する。 ③介護従事者の健康管理や労働環境の管理を理解する。				
評価基準	テスト：60％ 確認テスト：30％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	介護の基本Ⅰ、認知症の理解、障害の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	末木 三良			実務経験	○
実務内容	通所介護、介護保険施設、訪問介護、居宅介護支援事業所にて勤務した実務経験を元に、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価の方法など
2	介護実践における連携①	多職種連携・協働とは、多職種連携・協働を要請する社会の動き
3	介護実践における連携②	多職種連携・協働の必要性と効果
4	介護実践における連携③	多職種連携・協働のためのチームづくり
5	介護実践における連携④	課題解決に対する多職種のかかわり
6	介護実践における連携⑤	多職種協働に求められるコミュニケーション能力
7	介護実践における連携⑥	保健・医療・福祉職の役割と機能 介護従事者の倫理
8	介護実践における連携⑦	多職種連携・協働の実際 介護従事者の倫理
9	介護サービス①	認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制
10	介護サービス②	認知症の人を支える多職種連携と協働
11	介護サービス③	障害のある人の生活を地域で支えるサポート体制

12	介護実践における連携⑧	障害のある人を支える多職種連携と協働
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント①	介護における安全の確保
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント②	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント③	福祉サービスに求められる安全・安心
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント④	事故防止のための対策
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤	感染予防の基礎知識
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥	感染予防と感染対策
20	介護従事者の安全①	介護従事者を守る団体と法制度
21	介護従事者の安全②	介護に従事する人の健康問題と予防
22	介護従事者の安全③	こころの健康管理
23	介護従事者の安全④	身体の健康管理
24	介護従事者の安全⑤	労働環境の整備
25	高齢者福祉と介護保険制度①	高齢者福祉の動向
26	高齢者福祉と介護保険制度②	高齢者福祉に関連する法律と制度
27	障害者福祉と障害者保健福祉制度①	障害者福祉の動向
28	障害者福祉と障害者保健福祉制度②	障害者福祉に関連する法律と制度
29	後期のまとめ	後期の振り返り
30	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	コミュニケーション技術Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	コミュニケーション技術Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術/ 教員作成プリント		出版社	中央法規出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解する。さまざまなコミュニケーション技法について基礎を修得する。				
到達目標	①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②手話や点字の技法について理解し、実際に体験することでそれらの基本を修得する。 ③手話で自己紹介ができる。 ④点字で簡単な文章が作成できる。				
評価基準	実技評価50% 小テスト30% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	コミュニケーション技術Ⅰ 介護の基本Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤宮子 他1名			実務経験	○
実務内容	長年墨田区の点訳ボランティア活動に従事した実務経験を元に、様々なコミュニケーション技法を伝授する。東京都点訳奉仕員指導者、都立高校特別専任講師、点字指導員の資格保有者。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	点字実技を始めるにあたっての基礎知識（仕組み・構成・濁音・拗音）			
2	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション①	点字書きの基礎 50音とかなづかい			
3	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション②	点字下記の基礎 数字・アルファベット			
4	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション③	点字下記の基礎 文章の書き方			
5	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション④	点字下記の基礎 点字まとめ			
6	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑤	手話授業のオリエンテーション 挨拶/ 名前の表し方 / 指文字①			
7	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑥	家族の表し方 / 家族の紹介 / 指文字②			
8	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑦	数の表し方/ たずねる時の手話（5W2H）/ 指文字③ / 都道府県名			
9	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑧	趣味の表し方/ 指文字④ / 都道府県名			
10	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑨	仕事の表し方/ 都道府県名			
11	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑩	聴覚障害者の基礎知識 / 住所の表し方 / 東京都23区			
12	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑪	自己紹介（これまでの復習）			
13	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑫	1日のこと / 1週間のこと			
14	介護場面における利用者家族とのコミュニケーション⑬	旅行のこと			
15	まとめ	実技評価 達成課題の確認			

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術（生活）		
必修選択	必修	（学則表記）	生活支援技術（生活）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	居住環境を生活の流れの中で理解し、利用者及びその家族のニーズに応じた自立に向けた居住環境の整備を理解できる。介護福祉士として、介護予防も含めた生活支援のあり方について、ICFの視点に基づき、利用者の状態に応じた生活支援を実践できる能力を養う。		
到達目標	①生活の場の考え方について理解でき、「生活支援の考え方」を説明することができる。 ②高齢者や障害のある方の各々のニーズに合わせた居住環境の形成についての説明ができるようになる。 ③介護予防の基本的な考え方が理解できる。 ④自立に向けた居住環境の形成に向けて、具体的な事例をもとに他職種との連携のあり方を示すことができるようになる。		
評価基準	筆記試験	60%	授業参加度 20% レポート 20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	岡山 勝子	実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年間勤務した実務経験を元に、介護福祉士として必要な生活支援の考え方を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生活支援とは	オリエンテーション 生活支援とは何か 生活の定義
2	生活を理解する視点 ①	生活支援と介護過程
3	生活を理解する視点 ②	生活支援とチームアプローチ
4	自立に向けた居住環境の整備①	住まいの役割と機能
5	自立に向けた居住環境の整備②	生活空間
6	自立に向けた居住環境の整備③	快適な室内環境
7	自立に向けた居住環境の整備④	安全に暮らすための生活環境
8	自立に向けた居住環境の整備⑤	安全に暮らすための生活環境
9	自立に向けた居住環境の整備⑥	高齢者・障害者の住まい
10	自立に向けた居住環境の整備⑦	他職種との連携
11	応急手当の知識と技術①	応急手当とは
12	応急手当の知識と技術②	応急手当の実際 （外傷 ・骨折 ）
13	応急手当の知識と技術③	応急手当の実際 （ 窒息 ・やけどなど ）

14	応急手当の知識と技術④	応急手当の実際
15	総括	前期のまとめ 知識の確認
16	生活支援と福祉用具の活用①	福祉用具とは 福祉用具の種類 介護ロボットの活用
17	生活支援と福祉用具の活用②	福祉用具とは 福祉用具の種類 介護ロボットの活用
18	生活支援と福祉用具の活用③	公的制度における福祉用具サービス
19	生活支援と福祉用具の活用④	適切な福祉用具を選ぶための視点
20	生活支援と福祉用具の活用⑤	適切な福祉用具を選ぶための視点
21	生活支援と福祉用具の活用⑥	適切な福祉用具を選ぶための視点
22	生活空間と介護①	生活と環境問題 環境問題について考える
23	生活空間と介護②	環境問題について考える / グループ研究
24	生活空間と介護③	環境問題について考える / グループ研究
25	生活空間と介護④	環境問題について考える / グループ発表
26	生活空間と介護⑤	環境問題について考える / グループ発表
27	安全で心地よい生活の場とは	安全で住み心地の良い生活の場づくりの工夫
28	災害時における生活支援①	被災地で活動する際の心構え
29	災害時における生活支援②	災害時における生活支援
30	総括	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術（睡眠）		
必修選択	必修	（学則表記）	生活支援技術（睡眠）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	最新 介護福祉士養成講座7	生活支援技術Ⅱ	出版社	中央法規出版	
	最新 介護福祉士養成講座8	生活支援技術Ⅲ			

科目の基礎情報②

授業のねらい	高齢者や障害者の生理、心理を十分に理解し、寝室の環境整備や安眠のための技術を習得する。				
到達目標	①睡眠の意義と目的について理解し、基礎知識を習得・高齢者の睡眠の特徴を理解できる。 ②個別アセスメントをもとに、心身の状況に合わせた安眠への工夫ができる。 ③安眠を支えるための環境整備や用具の活用方法について理解できる。 ④疾病別の安楽な体位の種類や方法について理解し、実践できる。				
評価基準	筆記試験40％ 技術評価40％ 授業態度 20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石引 宏明			実務経験	○
実務内容	介護福祉士として「小規模多機能型居宅介護池尻」に3年勤務した実務経験を元に、寝室の環境整備や安眠のための技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自立に向けた睡眠の介護①	オリエンテーション 睡眠の意義 目的と高齢者の睡眠の特徴
2	自立に向けた睡眠の介護②	安眠のための介護の工夫
3	利用者の状態・状況に応じた介助	睡眠薬と副作用 睡眠の介助における状態別介助の視点
4	安眠を促す介助の技法①	臥床者のいる状態でのシーツ交換
5	安眠を促す介助の技法②	疾病別睡眠と安楽な体位
6	睡眠に関するアセスメントの視点	ICFの視点にもとづくアセスメント 他職種協働
7	安眠を促す介助の技法③	利用者の状態に応じた援助技術
8	安眠を促す介助の技法④	利用者の状態に応じた援助技術
9	自立に向けた睡眠の介護の実際①	事例課題演習（事例をもとに考える）
10	自立に向けた睡眠の介護の実際②	事例課題演習（手順・留意点・声かけ等を考える）
11	自立に向けた睡眠の介護の実際③	事例課題演習（実技テスト練習）
12	自立に向けた睡眠の介護の実際④	事例確認（実技テスト）
13	自立に向けた睡眠の介護③	総まとめ 実技テスト振り返り
14	安眠を促す介助の技法⑤	温電法・冷電法
15	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術（家事）		
必修選択	必修	（学則表記）	生活支援技術（家事）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	3	45
使用教材	最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	さまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識、家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践に活用できる能力や、利用者の個性に対応できる技術を習得する。				
到達目標	①家事の介助の意義及び目的を理解し、自分の言葉で表現できる。 ②家事の介助を必要とする人の状態を把握し、適切な家事の介助のための技術を選択することができる。 ③家事の介助を必要とする人に、適切な家事の介助を提供できる技術を習得できる。				
評価基準	筆記試験50％ 提出物等20％ 授業態度30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野 直子 他2名			実務経験	○
実務内容	赤坂見附前田病院に栄養士として勤務、管理栄養士として企業で「特定保健指導」を行った実務経験を元に、家事の介助のための技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自立に向けた家事の介護①	オリエンテーション 家事の意義と目的 家庭経営 家計の管理
2	自立に向けた家事の介護②	家事への参加とその意欲・支える介護の工夫
3	自立に向けた家事の介護③	被服の機能 繊維の種類
4	家事の技法①	布の種類・特徴・洗濯の科学
5	家事の技法②	洗濯・しみ抜き実験
6	家事の技法③	基礎縫い（まつり・千鳥がけ・ボタン付け）
7	家事の技法④	基礎縫い（スナップ付け・つくろいもの ）
8	家事の技法⑤	授業のまとめ
9	栄養の基礎知識と調理技術の知識	授業の進め方 食事バランスガイド 調理の基礎
10	栄養の基礎知識と調理技術の知識	調理の基礎、衛生
11	調理の技法 ①	調理基礎について学ぶ① （切り方）
12	調理の技法 ②	調理基礎について学ぶ② （出汁のとり方・計量 ）

13	調理の技法 ③	軟食 （とろみ・ゼラチン・ 全粥 ）
14	調理の技法 ④	減塩食について
15	調理の技法 ⑤	煮込み料理、スープなどについて学ぶ
16	調理の技法 ⑥	行事食 （チラシ寿司）
17	調理の技法 ⑦	低カロリー食（炊き込みご飯など）
18	利用者の状態に応じた調理の技法	様々な調理器具、自具具
19	まとめ	栄養素の基礎知識
20	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	介護過程Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護過程Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護実習で経験した様々な介護の場面を振り返り、介護の実践課程を構成する要素（人的、環境、ツール）の特性や活用方法を学ぶ。		
到達目標	①介護サービス利用者が生活する環境を考慮し、その時その場で最善の支援ができるよう、既存のサービス、社会資源を活用した介護過程を展開できるようになる。 ②把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題に向けて必要な介護実践の内容を計画できるようになる。 ③介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が妥当なものであるかどうかの判断、また他者への計画への正当な評価ができるようになる。 ④介護過程の展開に必要な知識と技術を身につけ、専門職の一員として他職種との連携を行うことができる。		
評価基準	期末試験50％ 提出物10％ 小テスト20％ 授業参加度 20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上あるもの ・成績評価が3以上のもの		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護過程Ⅰ・Ⅱ 介護実習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	北上 愛子	実務経験	○
実務内容	IMSグループ新越谷病院にて介護福祉士として10年間勤務した実務経験を元に、介護の実践課程を構成する要素（人的、環境、ツール）の特性や活用方法を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護過程の実践的展開①	実習Ⅰ－2で情報収集した利用者の情報を解釈する
2	介護過程の実践的展開②	実習Ⅰ－2で情報収集した利用者の情報を解釈する
3	介護過程の実践的展開③	利用者の望む生活に向けた介護計画を立案、評価方法を検討する
4	介護過程の実践的展開④	利用者の望む生活に向けた介護計画を立案、評価方法を検討する
5	介護過程の実践的展開⑤	利用者の望む生活に向けた介護計画を立案、評価方法を検討する
6	介護過程の実践的展開⑥	利用者の望む生活に向けた介護計画を立案、評価方法を検討する
7	介護過程の実践的展開⑦	次回の実習で行う介護過程の展開の実施について確認する
8	介護過程の実践的展開⑧	次回の実習で行う介護過程の展開の実施について確認する
9	介護過程の実践的展開⑨	次回の実習で行う介護過程の展開の実施について確認する
10	介護過程の実践的展開⑩	次回の実習で行う介護過程の展開の実施について確認する
11	実際の介護過程の実践的理解①	実習での実践内容を報告し、評価を受ける 他者の評価も行う

12	実際の介護過程の実践の理解②	実習での実践内容を報告し、評価を受ける 他者の評価も行う
13	実際の介護過程の実践の理解③	実習での実践内容を報告し、評価を受ける 他者の評価も行う
14	実際の介護過程の実践の理解④	介護実践、事例研究についてのまとめ方
15	総括	学びの振り返り
16	介護過程とチームアプローチ①	チームアプローチの中での介護福祉士の役割について学ぶ。
17	介護過程とチームアプローチ②	チームアプローチの中での介護福祉士の役割について学ぶ。
18	介護過程とチームアプローチ③	参加する専門職それぞれの立場に立って、模擬カンファレンスを行う。
19	介護過程とチームアプローチ④	参加する専門職それぞれの立場に立って、模擬カンファレンスを行う。
20	介護過程とチームアプローチ⑤	参加する専門職それぞれの立場に立って、模擬カンファレンスを行う。
21	介護過程とチームアプローチ⑥	参加する専門職それぞれの立場に立って、模擬カンファレンスを行う。
22	介護過程とチームアプローチ⑦	多職種との連携と協働
23	サービス提供計画の理解①	サービス担当者会議
24	サービス提供計画の理解②	介護過程とケアプラン（介護サービス計画）
25	サービス提供計画の理解③	生活支援計画（精神障害・知的障害）
26	終末期の介護過程①	人の死について多角的な視点で理解する。
27	終末期の介護過程②	人の死について多角的な視点で理解する。
28	専門職としてあるべき姿の確認①	専門職として守るべき倫理、道徳、職業人としての自分を考える
29	専門職としてあるべき姿の確認②	専門職として守るべき倫理、道徳、職業人としての自分を考える
30	総まとめ	振り返り・課題達成の確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義・演習	科目名	介護総合演習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護総合演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	学内で学んだ知識と実習実践で学んだ介護技術を統合でき、利用者に合わせて技術や知識を応用できる力を身につける。				
到達目標	①実習Ⅱの実習施設の概要と利用者のニーズを整理・理解できる。 ②コミュニケーション技術、観察技術を土台に個別ケアの取り組みが理解できる。 ③実習後の自己の振り返りをし、課題を明確化し次段階につなげることができる。 ④質の高い介護実践や根拠に基づく介護の意義と方法を理解できる。				
評価基準	提出物 50% 授業態度（事例発表会）50%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	介護実習Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	北上 愛子			実務経験	○
実務内容	IMSグループ 新越谷病院にて介護福祉士として10年間勤務した実務経験を元に、応用的な介護技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	資格取得時の到達目標 実習先調査
2	実習Ⅱ準備①	実習身上書作成 実習目標の設定
3	実習Ⅱ準備②	実習身上書作成 実習目標の設定
4	実習Ⅱ準備③	実習Ⅱの流れ・週間計画と毎日の実習目標や行動目標を考える
5	実習Ⅱ準備④	実習記録の書き方 (毎日の実習記録について / 個人情報保護について)
6	実習Ⅱ準備⑤	実習記録の書き方 (フェイスシート・アセスメントシートの確認)
7	実習Ⅱ準備⑥	実習記録の書き方(個別援助計画表の記入)・カンファレンスについて
8	介護事例研究準備①	介護事例研究とは / 論文のまとめ方 ケースレポートについて
9	実習Ⅱ準備⑦	実習直前オリエンテーション(校内) 持ち物準備・実習にむけて
10	帰校日指導	情報収集の整理
11	実習Ⅱ振り返り①	報告会

12	実習Ⅱ振り返り②	自己の課題の明確化
13	実習Ⅱ振り返り③	実技の基本と応用の違いについて
14	介護事例研究準備②	抄録の作成準備について 事例発表会役割決め
15	まとめ	ケースレポート見直し、介護事例発表会用 テーマ決め 抄録下書き準備
16	介護事例研究準備③	抄録構成 作成準備
17	介護事例研究準備④	抄録構成 作成
18	介護事例研究準備⑤	介護事例発表会用 PPT 作成準備
19	介護事例研究準備⑥	介護事例発表会用 PPT 作成準備
20	介護事例研究準備⑦	介護事例発表会用 PPT 作成準備
21	介護事例研究準備⑧	介護事例発表会用 PPT 作成準備
22	介護事例研究準備⑨	介護事例発表会用 PPT 作成準備
23	介護事例研究準備⑩	介護事例発表会用 PPT 作成準備
24	介護事例研究準備⑪	介護事例発表会用 PPT 作成準備
25	介護事例研究準備⑫	介護事例発表会準備
26	介護事例研究準備⑬	介護事例発表会準備
27	介護事例発表会	介護事例発表会準備
28	介護事例発表会	介護事例発表会
29	介護事例発表会	介護事例発表会
30	介護事例発表会	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	介護実習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	6	180
使用教材	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	利用者の生活上の課題を明確にするための介護過程を展開し、学習した知識や技術を統合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。				
到達目標	①受け持ち利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程が展開できる。 ②利用者の個別ケアを実施するために必要な介護が理解でき、他職種協働や関係機関との連携について理解できる。 ③介護という職業の意義・職業倫理について考え理解する。				
評価基準	施設実習評価90％ 教員評価10％ とし、5段階評価とする。				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	介護総合演習Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
備考					
担当教員	北上 愛子 他2名		実務経験	○	
実務内容	IMSグループ新越谷病院にて介護福祉士として10年間勤務 現在デイサービスもとにて非常勤にて介護業務で勤務中				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1		受け持ち利用者の情報収集を行う。			
2		自立支援の視点から利用者の生活課題を明確にする。			
3		アセスメントによって明確になった課題に対して介護計画を立てる。			
4		介護計画に基づき、適切な介護を実践し、評価や修正を行う。			
5		実習を通して介護という職業・職業倫理について考えを深める。			

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	発達と老化の理解		
必修選択	必修	(学則表記)	発達と老化の理解		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 ②ライフサイクル各期における様々な発達課題について説明できる。 ③ライフサイクル各期における特徴的な疾患や障害等が説明できる。 ④老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響について説明できる。 ⑤高齢者に多い疾病や生活への影響、健康の維持増進を含めた生活支援について説明できる。				
評価基準	筆記試験60% 確認テスト 30% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	人間関係とコミュニケーション 社会の理解 介護の基本Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡山 勝子			実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年勤務した実務経験を元に、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人間の成長と発達の基礎的理解①	オリエンテーション 人間の成長と発達の考え方
2	人間の成長と発達の基礎的理解②	成長・発達の原則・法則 成長発達に影響する要因
3	発達段階と発達課題 ①	発達理論 / 発達課題とは何か / 発達段階と発達課題
4	発達段階と発達課題 ②	発達理論 / 発達課題とは何か / 発達段階と発達課題
5	発達段階と発達課題 ③	身体的機能の成長と発達
6	発達に伴う特徴的な疾病や障害	発達段階別の特徴的な疾病や障害
7	発達段階と発達課題 ④	心理的機能の発達
8	発達段階と発達課題 ⑤	社会的機能の発達
9	老年期の発達と成熟①	老年期の定義・老化とは
10	老年期の発達と成熟②	老年期の発達課題

11	老年期の発達と成熟③	老年期の発達課題
12	老年期の発達と成熟④	老年期をめぐる今日的課題
13	老化に伴うところとからだの変化と生活①	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下
14	老化に伴うところとからだの変化と生活②	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下と生活への影響①
15	まとめ	前期の振り返り 知識の確認
16	老化に伴うところとからだの変化と生活③	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下と生活への影響②
17	老化に伴うところとからだの変化と生活④	老化による認知機能・知的機能の変化 ①
18	老化に伴うところとからだの変化と生活⑤	老化による認知機能・知的機能の変化 ②
19	老化に伴うところとからだの変化と生活⑥	パーソナリティの変化
20	老化に伴うところとからだの変化と生活⑦	老化と動機付け・適応
21	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	社会の中での生活上の課題
22	高齢者と健康①	健康長寿に向けての健康
23	高齢者と健康②	高齢者の症状の現れ方の特徴 老年症候群 廃用症候群
24	高齢者と健康③	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点 ①
25	高齢者と健康④	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点 ②
26	高齢者と健康⑤	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点 ③
27	高齢者と健康⑥	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点 ④
28	高齢者と健康⑦	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点 ⑤
29	保険医療職との連携	多職種連携 ・まとめ
30	総まとめ	後期の振り返り 知識の確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	障害の理解Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	障害の理解Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	障害の基礎知識と障害を持つ人の心理や 身体的機能 、社会的側面に関する基礎的な知識を理解する。				
到達目標	①様々な障害についての医学的・心理的側面の基礎知識と障害のある人の心理や日常生活への影響を理解できる。 ②障害がある人の日常生活への影響を踏まえたアセスメントの基本視点を学び、どのような生活支援が必要か考えることができるようになる。 ③障害のある人への地域のサポート体制や福祉、保健、医療との連携と協働について理解できる。 ④障害のある人の家族について理解し、その支援について考えることができる。				
評価基準	筆記試験60% 小テスト30% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	障害の理解Ⅰ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 介護の基本Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡山 勝子			実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年勤務した実務経験を元に、障害に対する基礎的な知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	障害の基礎的理解	オリエンテーション 1年次の復習 障害の分類
2	障害のある人の心理	障害が及ぼす心理的影響 障害の受容 適応機制
3	障害の医学的側面の基礎的理解①	肢体不自由の種類・原因・特性 運動機能障害
4	障害の医学的側面の基礎的理解②	肢体不自由の種類・原因・特性 視覚障害・聴覚・言語障害
5	障害の医学的側面の基礎的理解③	肢体不自由の種類・原因・特性 重複障害
6	障害の医学的側面の基礎的理解④	内部障害の種類・原因・特性 呼吸機能・心臓機能など
7	障害の医学的側面の基礎的理解⑤	内部障害の種類・原因・特性 腎機能・膀胱・直腸障害など
8	障害の医学的側面の基礎的理解⑥	重症心身障害
9	障害の医学的側面の基礎的理解⑦	知的障害・精神障害
10	障害の医学的側面の基礎的理解⑧	高次脳機能障害・発達障害
11	障害の医学的側面の基礎的理解⑨	高次脳機能障害・発達障害
12	障害の医学的側面の基礎的理解⑩	難病
13	連携と協働	地域のサポート体制 チームアプローチ

14	家族への支援	家族に対する支援のあり方
15	総括	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	こころとからだのしくみⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	こころとからだのしくみⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	60
使用教材	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護福祉士として必要な人体についての知識を持ち、医療職と連携・協働できる能力を身につける。		
到達目標	①人体各部位の名称を正確に答えることができる。 ②生命維持について関わっている人体の機能について説明できる。 ③こころとからだのしくみの機能低下や障害をおこす原因について説明できる。 ④医療職との連携について、観察すべきことや報告の仕方がわかり、介護職としての役割を述べることができる。		
評価基準	筆記試験 60% 小テスト 30% 授業態度 10%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	こころとからだのしくみⅠ 発達と老化の理解 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	岡山 勝子	実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年勤務した実務経験を元に、人体についての知識、医療職と連携・協働できるための知識を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	こころとからだのしくみⅡを学ぶ意義	オリエンテーション こころとからだの基礎知識（復習）
2	移動に関連したこころとからだのしくみ①	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 / 廃用症候群
3	移動に関連したこころとからだのしくみ②	褥瘡の発生と予防
4	身支度に関連したこころとからだのしくみ①	機能低下が及ぼす影響とその原因について
5	身支度に関連したこころとからだのしくみ②	機能低下が及ぼす影響とその原因について
6	食事に関連したこころとからだのしくみ①	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
7	食事に関連したこころとからだのしくみ②	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
8	食事に関連したこころとからだのしくみ③	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
9	食事に関連したこころとからだのしくみ④	食事と薬 医療職との連携
10	食事に関連したこころとからだのしくみ⑤	変化の気づきと対応

11	食事に関連したところとからだのしくみ⑥	変化の気づきと対応 誤嚥と窒息
12	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ①	入浴・清潔保持のしくみ
13	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ②	入浴の効果
14	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ③	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
15	まとめ	知識の確認
16	排泄に関連したところとからだのしくみ①	排泄に関連した機能の復習 消化のしくみ
17	排泄に関連したところとからだのしくみ②	排泄に関連した機能の復習 排泄ののしくみ
18	排泄に関連したところとからだのしくみ③	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 尿失禁
19	排泄に関連したところとからだのしくみ④	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 尿失禁
20	排泄に関連したところとからだのしくみ⑤	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 便秘と下痢
21	排泄に関連したところとからだのしくみ⑥	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 まとめ
22	睡眠に関連したところとからだのしくみ①	睡眠のしくみと生理的意味
23	睡眠に関連したところとからだのしくみ②	睡眠の質 睡眠障害
24	睡眠に関連したところとからだのしくみ③	睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下
25	死にゆく人のところとからだのしくみ①	「死のとらえかた」について理解する
26	死にゆく人のところとからだのしくみ②	「死のとらえかた」について理解する
27	死にゆく人のところとからだのしくみ③	終末期～危篤、死亡時のからだと「死」に対するところの理解
28	死にゆく人のところとからだのしくみ④	医療職との連携
29	医療職との連携	変化と気づき 報告の仕方
30	総まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療的ケアⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	医療的ケアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療職との連携の下で医療的ケアを行う上で必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	①消化器の仕組みと働きを理解し、経管栄養が必要な状態を説明できる。 ②経管栄養の種類、およびそれぞれの留意点を説明できる。 ③経管栄養中、後に生じる危険や消化器系の感染症について説明できる。 ④子どもの経管栄養についての留意点を説明できる。 ⑤高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」や「経管栄養」についての実施手順が理解できる。 ⑥ヒヤリハットアクシデント報告・記録について理解できる。				
評価基準	筆記テスト60% 小テスト30% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	医療的ケアⅢ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐藤 理沙			実務経験	○
実務内容	看護師として訪問看護・訪問入浴等の介護サービス事業等に勤務した実務経験を元に、医療的ケアを行う上で必要な知識・技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医療的ケア実施の基礎①	オリエンテーション 授業の目的 喀痰吸引の実施手順復習
2	喀痰吸引実施手順①	口腔内・鼻腔内吸引実施手順（復習）
3	喀痰吸引実施手順②	気管カニューレ内部吸引実施手順（復習）
4	医療的ケア実施の基礎②	消化器系の仕組みと働き
5	医療的ケア実施の基礎③ 経管栄養の基礎知識①	消化器の主な症状 / 経管栄養とは・必要性
6	経管栄養の基礎知識②	経管栄養の種類と取り扱い 経管栄養に関する感染と予防
7	経管栄養の基礎知識③	経管栄養に使用する器具、器材とその仕組み
8	経管栄養の基礎知識④	経管栄養（胃ろう・腸ろう）に使用する器具、器材とその仕組み
9	経管栄養の実施手順①	経管栄養に使用する器具、器材の清潔について
10	経管栄養の実施手順②	注入する内容に関する知識 経管栄養実施上の留意点
11	経管栄養の実施手順③	子どもの経管栄養、経管栄養に必要なケア 説明と同意

12	経管栄養の実施手順④	経管栄養の実施手順と留意点（経鼻経管）
13	経管栄養の実施手順⑤	経管栄養の実施手順と留意点（経鼻経管）
14	経管栄養の実施手順⑥	経管栄養の実施手順と留意点（胃ろう）
15	経管栄養の実施手順⑦・まとめ	経管栄養の記録と報告　　まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療的ケアⅢ（演習）		
必修選択	必修	（学則表記）	医療的ケアⅢ（演習）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」の演習において、シュミレーターを使用してケア実施の流れと留意点を学び、安全に行うための技術を習得する。				
到達目標	①喀痰吸引 シュミレーターを用いて、一人で実施できる。 ②経管栄養 シュミレーターを用いて、一人で実施できる。 ③救急蘇生 シュミレーターを用いた救急蘇生の一連の流れを理解できる。				
評価基準	演習5回目以上で手順通りに実施できれば、成績評価は3以上とする。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	医療的ケアⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡山 勝子 他1名			実務経験	○
実務内容	国立病院・順天堂大学病院・クリニック等で看護師として計18年勤務した実務経験を元に、シュミレーターを使用してケア実施の流れと留意点、安全に行うための技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	経管栄養 胃ろうまたは腸ろう	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習 演習5回以上
2	経管栄養 経鼻	経鼻経管栄養の演習 演習5回以上
3	喀痰吸引 口腔内	口腔内の喀痰吸引の演習 演習5回以上
4	喀痰吸引 鼻腔内	鼻腔内の喀痰吸引の演習 演習5回以上
5	喀痰吸引 気管カニューレ内部	気管カニューレ内部の喀痰吸引の演習 演習5回以上
6	救急蘇生法	救急蘇生法 演習1回以上